

**特別企画:滋賀県内企業メインバンク調査 (2022年)**

## 滋賀銀行がシェア 58.9%でトップ ～滋賀中央信金、京都銀行、京都中央信金が社数を増やす～

### はじめに

人口減少、超低金利による貸出金利の低下など金融機関は厳しい経営環境が続くなか、地方銀行を中心に再編の動きが活発化している。10月には、戦後初となる愛知県下の地銀統合として、愛知銀行と中京銀行による持ち株会社「あいちフィナンシャルグループ (FG)」が発足した。11月には、ふくおかFGと福岡中央銀行が経営統合に向け基本合意に達し、同グループ最大の経営基盤となる福岡県下で勢力を拡大させる。

コロナ禍で疲弊した中小企業への支援が、経営再建や事業承継、取引先の新規開拓など、資金繰りから企業再編・再生へと移ろうなかで、地域金融機関に求められる役割は経営の様々な場面で増している。金融機関によっては実質無利子・無担保融資（ゼロゼロ融資）などで地域密着型の経営を選択する傾向もあるなか、金利以外の魅力度を高めた金融機関が様々な課題を持つ企業から幅広い支持を得る形となり、今後メインバンクシェアに変化が訪れる可能性がある。

帝国データバンク滋賀支店では、2022年10月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」に収録されている滋賀県内の企業(13,577社)がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計した。同調査は2022年1月に続き6回目。

本調査は「COSMOS2」に収録されている企業のデータであるため、各金融機関がメインとして取引している実数とは異なることがある。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、企業が最上位として認識している金融機関を集計した。

### 調査結果 (要旨)

1. 滋賀県内の企業がメインバンクと認識している金融機関のトップは、「滋賀銀行」でシェア 58.9%。「関西みらい銀行」がシェア 13.2%で2位、3位の「滋賀中央信金」や京都勢の「京都銀行」「京都中央信金」などが社数を伸ばした
2. 滋賀県内の企業を本社が所在する7地域別にみると、いずれの地域でも「滋賀銀行」がトップ。「関西みらい銀行」が7地区中4地区で2位、残り3地区では地元信金が存在感を見せた
3. 滋賀県内の企業を主要7業種別にみると、全業種で「滋賀銀行」がトップ、「関西みらい銀行」が2位となった。「滋賀銀行」は「建設」で6割を超えた

## 1. 県内ランキング ～滋賀と関西みらいでシェア 70%超～

滋賀県内の企業がメインバンクとして認識している金融機関は、「滋賀銀行」（大津市）が 8,026 社（前年比 70 社増）、構成比 58.9%（同 0.1 ポイント減）。前年比でシェアは微減となったものの、社数を伸ばし、2 位以下に大きく差をつけて首位となり、滋賀県唯一の地方銀行として滋賀県内で存在感を示した。2 位は、滋賀県を地盤とする第二地方銀行だったびわこ銀行の地盤を継承する「関西みらい銀行」（大阪市中央区）の 1,791 社（同 8 社減）、構成比 13.2%（同 0.2 ポイント減）となった。強固な地盤を有する 2 行でのシェアは 7 割以上となり、地域経済を支えている。

県内に本店を置く金融機関では、「滋賀中央信金」（彦根市）（718 社、構成比 5.3%）が 32 社伸ばし 3 位。5 位「長浜信金」（長浜市）（490 社、同 3.6%）も社数を伸ばした。「湖東信金」（東近江市）（411 社、同 3.0%）が 6 位を堅持し、8 位「滋賀県信組」（甲賀市）（221 社、同 1.6%）となり、信金・信組が攻勢を見せている。

関西みらい銀行以外の県外の金融機関では、4 位の「京都信金」（499 社、同 3.7%）、7 位の「京都銀行」（291 社、同 2.1%）、9 位の「京都中央信金」（147 社、同 1.1%）はともに社数・シェアを伸ばした。

### メインバンク社数上位行

順位	金融機関	2022年		2021年			増減 (社)
		社数 (社)	シェア	順位	社数 (社)	シェア	
1	滋賀	8,026	58.9%	1	7,956	59.0%	+70
2	関西みらい	1,791	13.2%	2	1,799	13.4%	-8
3	滋賀中央信金	718	5.3%	3	686	5.1%	+32
4	京都信金	499	3.7%	4	492	3.7%	+7
5	長浜信金	490	3.6%	5	485	3.6%	+5
6	湖東信金	411	3.0%	6	410	3.0%	+1
7	京都	291	2.1%	7	271	2.0%	+20
8	滋賀県信組	221	1.6%	8	224	1.7%	-3
9	↑ 京都中央信金	147	1.1%	10	140	1.0%	+7
10	↓ 三菱UFJ	139	1.0%	9	141	1.0%	-2
11	大垣共立	121	0.9%	11	122	0.9%	-1
12	三井住友	91	0.7%	12	84	0.6%	+7
13	↑ りそな	69	0.5%	14	64	0.5%	+5
14	↓ みずほ	66	0.5%	13	69	0.5%	-3
15	商工中金	49	0.4%	15	51	0.4%	-2
16	レーク大津農協	47	0.4%	16	46	0.3%	+1
17	グリーン近江農協	26	0.2%	17	26	0.2%	0
18	ゆうちょ	23	0.2%	18	23	0.2%	0
19	甲賀農協	18	0.1%	19	18	0.1%	0
20	東びわこ農協	17	0.1%	20	16	0.1%	+1

## 2. 地方銀行がシェア75%超と圧倒、信用金庫がシェア拡大

業態別にみると、シェアが最も高いのは「地方銀行」（シェア75.37%）となり、前年から0.24ポイント減少したものの、圧倒的なシェアを誇る「滋賀銀行」を中心に存在感を示した。

「信用金庫」（同16.71%）は3年連続でシェアが増加、「都市銀行（メガバンク）」（同2.69%）は4年連続2.6%台を維持したが、近畿全体と比較するといずれの業態も比率が低い。

実店舗を持たず、インターネットバンキングなどオンラインでの金融事業を主力事業とする「ネット銀行（新形態の銀行）」では、シェア0.07%と他業態に比べると少数であるが、徐々にシェアを伸ばしている。コロナ禍で、企業の入金方法などが対面からインターネットバンキング（IB）などに変化しているなか、決済手数料や基本利用料の低さを背景に、ネット銀行の口座開設・切り替えを進める企業が増えている。

### 業態別シェア 2022年上位順

調査年	地方銀行	信用金庫	都市銀行 (メガバンク)	信用組合	農協	政府系 金融機関	その他の 金融機関	ネット銀行など 新形態の銀行	第二地銀	信託銀行	労働金庫	漁協	
												(%)	
2019	76.05	15.88	2.67	1.81	1.20	0.42	0.22	0.06	0.06	0.04	0.01	0.00	
2020	75.88	16.12	2.68	1.84	1.18	0.41	0.21	0.05	0.06	0.03	0.01	0.00	
2021	75.61	16.41	2.66	1.86	1.12	0.44	0.21	0.07	0.06	0.04	0.01	0.00	
<b>2022</b>	<b>75.37</b>	<b>16.71</b>	<b>2.69</b>	<b>1.81</b>	<b>1.12</b>	<b>0.40</b>	<b>0.21</b>	<b>0.07</b>	<b>0.06</b>	<b>0.03</b>	<b>0.01</b>	<b>0.00</b>	
前年比	▲ 0.24	+0.30	+0.03	▲ 0.05	±0.00	▲ 0.04	±0.00	±0.00	±0.00	▲ 0.01	±0.00	±0.00	
(参考)	調査年	地方銀行	信用金庫	都市銀行 (メガバンク)	信用組合	農協	政府系 金融機関	その他の 金融機関	ネット銀行など 新形態の銀行	第二地銀	信託銀行	労働金庫	漁協
近畿	2022	29.11	27.88	32.78	1.43	0.73	0.58	0.34	0.15	3.44	0.09	0.03	0.03
	前年比	+0.01	+0.32	▲ 0.50	+0.01	±0.00	▲ 0.01	±0.00	+0.03	+0.03	+0.01	±0.00	±0.00

### 3. 地域別シェアランキング

地域別にみると、「滋賀銀行」が最もシェアの低い湖北エリアでも5割を超え、最も高い高島エリアでは7割超、湖東エリア、甲賀エリアではともに6割超となるなど圧倒的な強さを見せた。また、「関西みらい銀行」が7地区中4地区で2位となり、残りの3地区でも3位となった。信金では「滋賀中央信金」「長浜信金」「湖東信金」がそれぞれ本店（本部）を置くエリアで2位となり、地元金融機関の強みを見せた。その一方で、近隣府県の金融機関では「京都銀行」「京都信金」「京都中央信金」「大垣共立銀行」「りそな銀行」がランクインし、地域金融機関の広域化が進むなか、滋賀県でも競争が激化している。

#### 地域別メインバンク社数上位行

##### 【大津エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比
1	滋賀	1,517	56.7%
2	関西みらい	443	16.6%
3	京都信金	279	10.4%
4	京都	109	4.1%
5	京都中央信金	82	3.1%

##### 【湖南エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比
1	滋賀	1,733	60.0%
2	関西みらい	421	14.6%
3	京都信金	198	6.9%
4	滋賀中央信金	174	6.0%
5	京都	77	2.7%

##### 【湖東エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比
1	滋賀	1,041	63.1%
2	滋賀中央信金	298	18.1%
3	関西みらい	164	9.9%
4	りそな	37	2.2%
5	大垣共立	28	1.7%

##### 【湖北エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比
1	滋賀	933	52.5%
2	長浜信金	480	27.0%
3	関西みらい	188	10.6%
4	大垣共立	89	5.0%
5	北びわこ農協	14	0.8%

##### 【東近江エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比
1	滋賀	1,394	58.5%
2	湖東信金	350	14.7%
3	関西みらい	250	10.5%
4	滋賀中央信金	222	9.3%
5	京都	38	1.6%

##### 【甲賀エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比
1	滋賀	975	65.6%
2	関西みらい	184	12.4%
3	滋賀県信組	146	9.8%
4	湖東信金	42	2.8%
5	京都	24	1.6%

##### 【高島エリア】

順位	金融機関名	社数	構成比
1	滋賀	433	70.6%
2	関西みらい	141	23.0%
3	滋賀県信組	12	2.0%

<sup>1</sup> エリアの区分は次のとおり

大津エリア=大津市 湖南エリア=草津市、守山市、野洲市、栗東市 東近江エリア=近江八幡市、東近江市、蒲生郡 湖北エリア=長浜市、米原市 湖東エリア=彦根市、犬上郡、愛知郡 甲賀エリア=甲賀市、湖南市 高島エリア=高島市

#### 4. 業種別ランキング

主要7業種（「建設」「製造」「卸売」「小売」「運輸・通信」「不動産」「サービス」）別にみると、「滋賀銀行」が全業種で5割超のシェアを占めトップとなり、「建設」では6割を超えた。「関西みらい銀行」は全業種で2位、最も社数の多い「建設」では16.0%のシェアを占めた。「滋賀中央信金」は全業種で3位となり、「小売」「不動産」ではともに6.4%のシェアを確保している。

上位行において大きな順位変動は見られないものの、「京都銀行」が「不動産」で7位（前年9位）、「製造」で5位（同6位）と順位を上げた。

建設業		2022年		2021年	
順位	金融機関	社数	シェア	順位	社数
		(社)			(社)
1	滋賀	2,960	62.3%	1	2,982
2	関西みらい	762	16.0%	2	765
3	滋賀中央信金	264	5.6%	3	256
4	長浜信金	182	3.8%	4	177
5	湖東信金	144	3.0%	5	147
6	京都信金	137	2.9%	6	137
7	滋賀県信組	74	1.6%	7	74
8	京都	71	1.5%	8	69
9	京都中央信金	44	0.9%	9	40
10	大垣共立	29	0.6%	10	30

製造業		2022年		2021年	
順位	金融機関	社数	シェア	順位	社数
		(社)			(社)
1	滋賀	983	56.0%	1	981
2	関西みらい	183	10.4%	2	193
3	滋賀中央信金	90	5.1%	3	90
4	京都信金	74	4.2%	4	73
5	↑ 京都	64	3.7%	6	60
6	↓ 三菱UFJ	61	3.5%	5	61
7	長浜信金	60	3.4%	7	59
8	湖東信金	54	3.1%	8	50
9	三井住友	37	2.1%	9	35
10	大垣共立	29	1.7%	10	29

卸売業		2022年		2021年	
順位	金融機関	社数	シェア	順位	社数
		(社)			(社)
1	滋賀	653	59.4%	1	659
2	関西みらい	115	10.5%	2	110
3	滋賀中央信金	62	5.6%	3	61
4	京都信金	53	4.8%	4	54
5	長浜信金	38	3.5%	5	39
6	京都	36	3.3%	6	36
7	湖東信金	25	2.3%	7	27
8	滋賀県信組	20	1.8%	8	20
9	三菱UFJ	15	1.4%	9	15
10	↑ 大垣共立	14	1.3%	11	14

小売業		2022年		2021年	
順位	金融機関	社数	シェア	順位	社数
		(社)			(社)
1	滋賀	1,029	58.5%	1	1,030
2	関西みらい	211	12.0%	2	202
3	滋賀中央信金	112	6.4%	3	106
4	京都信金	84	4.8%	4	80
5	長浜信金	78	4.4%	5	76
6	湖東信金	72	4.1%	6	74
7	滋賀県信組	39	2.2%	7	41
8	京都	34	1.9%	8	32
9	京都中央信金	20	1.1%	9	19
10	↓ 大垣共立	18	1.0%	9	19

運輸・通信業		2022年		2021年	
順位	金融機関	社数	シェア	順位	社数
		(社)			(社)
1	滋賀	274	57.0%	1	264
2	関西みらい	80	16.6%	2	89
3	滋賀中央信金	21	4.4%	3	19
4	長浜信金	16	3.3%	4	16
5	商工中金	14	2.9%	5	14
6	京都信金	13	2.7%	6	12
6	京都	13	2.7%	6	12
8	湖東信金	11	2.3%	8	10
9	三菱UFJ	8	1.7%	9	9
10	滋賀県信組	5	1.0%	10	4

不動産業		2022年		2021年	
順位	金融機関	社数	シェア	順位	社数
		(社)			(社)
1	滋賀	371	50.6%	1	364
2	関西みらい	104	14.2%	2	99
3	滋賀中央信金	47	6.4%	3	39
4	長浜信金	32	4.4%	4	30
5	京都信金	29	4.0%	5	29
6	湖東信金	25	3.4%	6	23
7	↑ 京都	23	3.1%	9	17
8	京都中央信金	19	2.6%	8	18
9	↓ 滋賀県信組	18	2.5%	7	19
10	三菱UFJ	9	1.2%	10	7

サービス業		2022年		2021年	
順位	金融機関	社数	シェア	順位	社数
		(社)			(社)
1	滋賀	1,631	59.2%	1	1,536
2	関西みらい	314	11.4%	2	317
3	滋賀中央信金	113	4.1%	3	102
4	京都信金	102	3.7%	4	98
5	長浜信金	81	2.9%	5	83
6	湖東信金	74	2.7%	6	70
7	京都	45	1.6%	7	43
8	滋賀県信組	34	1.2%	8	34
9	三菱UFJ	23	0.8%	9	23
10	京都中央信金	22	0.8%	10	21

## 5. まとめ

滋賀県下のメインバンクは、「滋賀銀行」が6割近いシェアを有し、トップを維持した。他方、2010年にびわこ銀行の地盤を継承した「関西みらい銀行」が7地区中4地区で2位、主要7業種の全業種で2位となり、地方銀行が強さを見せた。また、信金が地元の地区で強みを発揮するなか、近隣府県の地銀や信金もコロナ関連融資をきっかけに存在感を見せている。

地元金融機関が過去からの取引でシェアを維持しているものの、地元でのシェア拡大には早晚限界が来ることが予想される。このため、「SDGs」や「環境」など新しい融資基準を導入する滋賀銀行のように、独自の戦略を打ち出し、差別化を図ることが求められている。

近時は、コロナ禍の長期化や物価高などを背景として中小企業の資金繰りは悪化している。また、2023年はゼロゼロ融資の返済が本格化することもあって、倒産が増加する可能性が高い。このため、地元金融機関は中小企業との接触機会を増やすことで個別の支援体制を強化している。事業承継などに加え、金融債務を圧縮することで事業再建する私的整理スキームを活用するなど、メインバンクの果たす役割は大きい。

近年、貸出金利低下によって収益確保が容易ではないなか、地域金融機関は事業承継やM&A、事業転換、ビジネスマッチングなど、より深いコンサルティング機能を発揮している。地域商社や別業態への参入も可能となり、地域創生に向けて顧客へのサービスの幅は拡大しているが、選ばれる金融機関になるためには、その特性に磨きをかけ、企業が抱える課題への解決力を高める体制を今以上に整える必要があるだろう。

### 【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク滋賀支店 担当：北村伸泰

TEL 077-566-8230 FAX 077-566-8233

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。